



9 武奈ヶ岳

つて東側の琵琶湖と西側の安曇川に挟まれている。南の霊仙山から北の蛇谷ヶ峰まで南北約18^{キロ}続く山々は四季を通じてハイキング、岩登り、沢登り、スキーなどを楽しめる。JRや自家用車でのアクセスの良さもあり、京阪神からの登山者でにぎわう。

武奈ヶ岳(標高1214^{メートル})は天津市の北部に位置し比良山地の最高峰である。その山姿は麓から見ることができない。わずかに高島市や琵琶湖東岸から山頂部が見える程度である。比良山地は地形図で見ると、北東にY型の稜線とな

登山口はそれぞれ琵琶湖側、安曇川側があるが、比較的分かりやすい安曇川側の坊村(天津市葛川坊村町)からの登山道を案内する。かつて長い歴史のある修験道の時代は、明王院のある坊村が比良山の表口と言われた。琵琶湖側のリフトがなくなつて、坊村は今再び人気がある。



マイカーを坊村の曙橋を西に渡つて駐車させた後、国道を横断して明王院へ向かう。赤い欄干の三宝橋が登山口だ。写真①。ここで登山届をポストに入れるのを忘れないようにしたい。

右の林道を行くと白滝山や蓬萊山

急勾配の先に広がる絶景

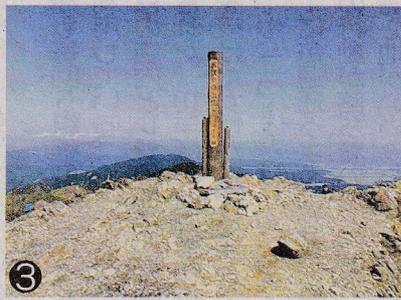
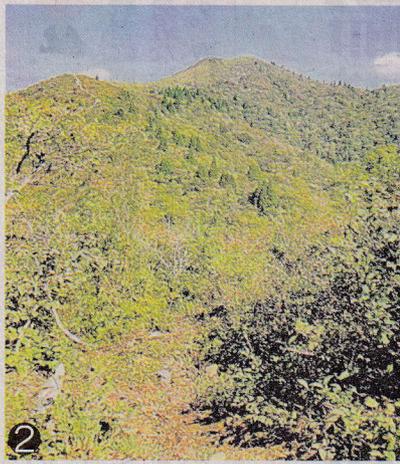
へと続く。現在林道は大雨で崩壊しており通行禁止となっているので注意しよう。今回は三宝橋を渡る。重要文化財に指定されている天台宗の葛川息障明王院がある。859(貞観元)年に相応和尚(831~918年)が開いた修行道場という。毎年7月18日の深夜には明王院太鼓回しという行事が村を挙げて行われている。

境内をまっすぐ進むと登山道の表示があり、ここから右へ杉の植林の中へ。急斜面のジグザクの登り道は少し苦しいが頑張りたい。杉林を過ぎると傾斜も緩やかになる。振り返ると安曇川を挟み鎌倉山(950^{メートル})が迫ってくる。

やがて登山口から1時間半ほどで夏道と冬道の分岐

道標に着く。右へ夏道を進み美しい自然林の中を進むと、冬道からの分岐点に合流する。さらに二次林の間を登ると御殿山(1097^{メートル})山頂が迎えてくれる。ここからの展望が今までの疲れがいやされる。ここにきてようやく武奈ヶ岳の頂と美しい西南稜が望める。写真②。

展望を楽しんだら少し急な下りのワサビ峠へ降りよう。峠からはしばらく樹林帯を登る。展望が開け、最後の西南稜の上りに取り付く。御殿山から約1時間、広く開けた武奈ヶ岳山頂に到着だ。写真③。好天であれば琵琶湖と周りの山々の景観に感動するだろう。西を望むと京都北山が重畳と連なつていて、山頂からの展望と山座同定を楽しめる。



①

②

③

アクセス 往復登山に適した坊村へのバス便はないので、自家用車の利用を勧

める。天津市葛川支所前の駐車場が利用できる。

